

## 第9回パネル展 仙台

2008年12月

## 遺族の悲しみを見つめる



河北新報2008年12月19日

職場での過労や強いストレスからうつ状態になって自殺した全国の五十人の遺書や写真、遺族の手記を紹介する「私の中で今、生きているあなた」展が十九日、仙台市青葉区の市福祉プラザで始まった。二十一日まで。

大阪市のNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」と仙台市の自死遺族会「藍の会」の主催。国内で自殺者数が十年続けて三万人を超えている背景の一つに、過酷な職場環境下

### 30 自殺した人の声聞いて あすまで 仙台で手記など展示会



でのうつ発症がある実態を広く知ってもらうことが狙い。

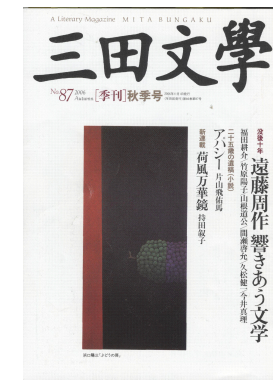
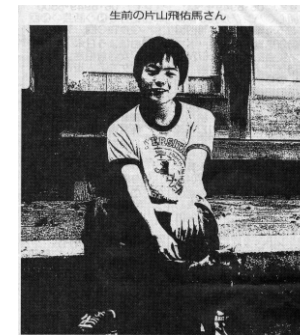
展示されている大手運輸会社に勤め五十六歳で自殺した男性の日記。「会社

に迷惑をかけていると思うなら、自分から身を引いたらどうや」と上司から厳しい言葉浴びせられた。どの文字がつづらられていた。自殺した人たちが元気づけたところの写真からは、本人や家族の無念さが伝わってくる。

開催時間は午前十時～午後六時。入場無料。無念さがない遺書や家族の手記、自殺者が元気だったころの写真などの展示物が、来場者の心を引きつけ

2006年10月に発売された三田文学に25歳で自死した片山飛佑馬さんの遺稿が掲載された。新聞等にも報道され、大きな反響があった。

この遺稿を無駄にせず、加えて、残された遺族をサポートする事は出来ないだろうか。そこから「私の中で今、生きているあなた」展示会の企画が始まった。



遺稿や写真新聞記事などを紹介する中で、亡くなった方の人生を、肯定する。

自殺という死の手段にとらわれず、死そのものを悲しみ、その悲しみを多くの人と共有する事が出来ないか。

当該遺族と十分な連携がない中で、不安の中での出発であった。唯一の朗報は日本財団の助成を受けることができ、財政面で心配しなくても良くなったことだった。